

ヒロハハナヤスリ		<i>Ophioglossum vulgatum</i> L.	絶滅危惧Ⅱ類
		ハナヤスリ科	
選定理由	分布域の多くが人の生活領域に含まれているため、環境の変化による種の存続への圧迫にさらされている。		写真(村長昭義) 
形態の特徴	栄養葉の基部はくびれ、孢子葉の葉柄を包む。栄養葉の幅のもっとも広いのは基部。		
生態的特徴	山地や原野に群生する。4月頃から葉を広げ、6月には孢子が成熟し、夏には枯れてしまう。		
分布状況	北海道・本州・四国・九州に分布するが、北の地方に多く産する。岐阜県では県北東部に分布するが県南部にも生育地がある。		
減少要因	山林開発および周辺植物の繁茂など植生環境の変化。ネザサが繁茂したことにより日照条件が悪化し、群生地が短期間で消滅した例もある。		
保全対策	生育地の開発防止と保全、および周辺植物の除伐など生育環境を維持する活動。		
特記事項			
参考文献			

文責:村瀬正成